

2024年9月10日

2024年度 第1回理容科教育課程編成委員会議事録

1. 開会日時 2024年9月10日(火) 10:00-12:30
2. 開催場所 埼玉県理容美容専門学校 地下多目的室
3. 出席者 7名

	氏名	所属
1	熊野 博仁	埼玉県理容生活衛生同業組合 本部講師会
2	中田 和伸	埼玉県理容生活衛生同業組合 本部講師会
3	若月 良仁	埼玉県理容生活衛生同業組合 本部講師会
4	若林 一樹	株式会社大野孝 グループ 本部企画室長
5	増村 信雄	埼玉県理容美容専門学校 校長
6	千住 義祐	埼玉県理容美容専門学校 法人本部長
7	井上 強	埼玉県理容美容専門学校 理容科教員

臨席 埼玉県理容生活衛生同業組合理事長 黒須一彦

4. 学校長 開会挨拶 (増村校長)
5. 2024年度第1回・教育課程編成委員会の目的 (司会・千住課長)

【教育課程編成委員 目標の確認】

- ・ 資料 / 職業実践専門課程・職業教育について文科省が認可した専門学校

職業実践専門課程とは、職業人を育成する目的で専門性の高い職業訓練的な課程を持つことにある。本会議は職業実践授業について、業界から意見聴取をすることで企業連携を密にし、またより効果的な教育課程編成を実施する目的で運営されている。是非、委員から職業人としての忌憚のない意見を伺い、また活発な意見交換を行いたい。

- ・ 資料・手引き / 本委員会の定義の説明

学校が主体的かつ統括的に関係部局などの意見や要請などをまとめ、教育課程編成に寄与する。会議運営は教育課程を計画的に実行するために連続的に実施するこ

とが求められている。

・ 資料・募集要項 / アドミッション・ポリシー

本会議は年2回開催設定である。前期・後期に対してそれぞれ9月、後期結果を2月後半に設定している。日程は後ほど調整する。次年度に意見をすぐ活かしていきたい。

6. 現況報告（理容科教員 井上 強）

2年生は現在、基礎を応用した実習に入っており、シャンプーについてはサロン就職後にすぐに対応できるようスタンド、サイド、バックの3種類のシャンプー技術を習得している。

1年生は基礎技術として、シャンプー・頭部処置・カットの授業に取り組み、手が動く、気が利く、をまず身に付けさせようとしている。

また、職業感を養うために卒業生講話として、アシスタントとして働く浅野さんと卒業間もない浅野さんと呼んで実施した。今回は、卒業してある程度技術の身についた先輩と、卒業間もない先輩という年齢と立場の違う二人を選定した。

全体として、重点項目は以下のとおりである。

- ・ シャンプー技術に力を入れている
- ・ 感謝祭に向けて 一年生・二年生の合同授業
- ・ 教員のブラッシュアップとして研修参加
- ・ 挨拶の徹底（声出し）
- ・ 見られている意識をもち、立ち居振る舞いに気を付ける
- ・ 授業で学んだことを実体験するため、2年生の実務実習を7月に実施
- ・ 1年生の実務実習は9月に2日間実施
- ・ 実務実習ではクロスの畳み方など、基本の仕事をサロンで実体験させる
- ・ 課外授業としてリベラルアーツ科目で、川越フィールドワークや埼玉県近代美術館での芸術鑑賞を実施。外に出る授業を取り入れて体験的な学びを増やす。
- ・ 1年生・2年生の交流授業を通して、2年生は技術の教え方の体験を通して学習の充実が図れている
- ・ 近年は家庭環境の格差が目立ち、育ってきた環境の違いから基本的な生活習慣の共有が図りにくい。今後の課題といえる。
- ・ 退学等の対応については、個別の対応などで進めている。話を聞いて相談する体

制は科内で連携は出来ていると思う。

- ・ 見られている意識について、壁面のガラスや外から見える環境は良くなった。
- ・ 学生の意識は幼稚さが散見される。短絡的でかっこいいと言われるとモチベーションが上がりやすい。

千住 リベラルアーツという科目の導入について説明。職業人としての一般教養を修養するとともに、コロナ禍で失われた学生たちの「社会経験」を補完する目的もあること、グループでの校外実習を通して時間の管理や感情のコントロールなどを自然に学ばせたい。

司会 それでは、以上の点を踏まえて委員の皆さんから忌憚のない意見を伺いたい。

熊野 授業に実際参加してみて、交流授業は人間関係も良くしていると感じられた。また、今年の学生技術大会関東ブロックを優秀賞で終え、1名が全国大会に進むことになったことは非常に喜ばしい。

若月 前回の教育課程編成委員会で「見られる意識」を持つべきと意見を述べた。昨年12月の授業の時に感じた、窓をしっかりと開けて見せた方がいい。かっこいいところを見せた方がいいというアドバイスだったが、実際に取り入れているかを伺いたい。

また、卒業生講話について年齢の近い卒業生を呼んで実施したとのことだが、来年の君たちを見せることを前回提案してそのアドバイスを活かしてもらったと思う。講師も「教えること」を意識することが職業人としての成長につながる。また、講師の歳が近い方が質問もしやすいので、今後も継続して欲しい。さらにグレードアップを図り一年後、二年後、三年後を見せていく計画も考えて欲しい。更なるグレードアップのために、校内での挨拶はできてはいるが、登下校は出来ているのか検証して欲しい。先生と学生が馴れ合いになってはいないか、立場をきちんと線引きして互いにわかまえていることが「礼」ではないか。

熊野 学内で、教員が叱った後に機嫌をとりにいくのは良くないと感じる。

井上 指導の仕方が教員によって違うことはあると思う。しかし、確かに寄り添い方が「点数稼ぎ」になっているかもしれない。指導の一本化と「線引き」は今後の課題である。

千住 中学・高校の教員と学生の距離感はだいぶ変わっている。教員の機嫌取りが多くみられる。教員の指導に反発されると退学につながる怖さはある。

※ 家庭がその役割を果たしていない。

中田 学校の取り組みは評価できる。今の学生は「カッコいい」人をリスペクトする事を踏まえて、経済的な業界の魅力について「自分がオーナーになった時の儲け方」など経営のイメージを沸かせる授業があってもいいのではないか。「夢を持たせる」、「成功した理容師」の講話など職業としてのビジョンを明確にするべきだと感じている。

※ 経営学よりも基本的なこと、具体例をあげて学ぶ。

黒須 全国理容生活同業組合連合会では「もうかる店」というテーマの問題提起があった。学校としては、今までは退学しないで全員が資格取得する、就職するという事が目的であったが、今後は「どういうことでやる気を出させる」かを考えなければならない。

「デキル」つもりで就職すると「やりなおし」になることも指導して欲しい。

中田 野球の大谷選手で話題になったが、9マス理論などを利用して「金儲けに関する9マス」をやってディスカッションするのも面白いのではないか。

井上 今は、都内など給料待遇が非常に良くなっている。理容師の就職は有利であり経済的には十分魅力はある。その一方で昔ながらの「技術を磨く」という意識は少なくなっている。

在学中に、経済的な目標の立て方や考えかたを学ばせることも大切だと感じる。

※ 二年生の夏休み後に退学するケースは、夏休みに割がいいアルバイトをして「今」の苦しきから逃れるためやめてしまうことが実際にある。

※ 理容の「かっこよさ」を伝える事が必要。

若林 様々な学校から入社しているが、本校の社会人としての育成はされていると感じる。現場でも曼荼羅チャートは活用されている。

退職の理由は 理容師になりたいというきっかけがあるものの、目的意識が失われてしまう。特に、経済的な要因は少なくない。

「なぜこの学校に入ったか」「なぜ理容師になりたいか」を、定期的に意識づけるため日の目標、月の目標を立てる事は有益な訓練である。

企業説明では、デメリットもきちんと伝えるべきである。働く意義は生活基盤を整えることであるから、儲けられない仕事をするべきではない。

サロンは多く見学して、しっかり現場を見て、現実も知った上で就職して欲しい。回数は増やしたほうがいい。

弊社の社内技術大会では、卒業生の竹内さんが優勝した。その要因はしっかり基礎ができていたことであり、本人の自信にもなっている。また、弊社では毎月個人式目標を提出させ、毎日の目標も立ててクラウド上で管理しており、「今日は笑顔でいる」などの小さな目標から初めている。

個人の目標や夢を考えさせていくことで学校でも退学などをさげられるのではないか。

井上 参考にしてみます。目標をクリアしていく事は「うれしい」につながると思う。

熊野 「人」に興味のない学生が多すぎる。アルバイトなどできちんと接客など出来ているのか、体験が活きているのか?理容の接客はコミュニケーション能力が非常に必要にある。

理容業は「45 cmの接客」である。(家族の距離に近い)心理接客という考え方が大切。叱る・諭す・寄り添うが必要な教員の指導においても「人」に興味を持つという基本的スタンスが有効である。

千住 「人」に興味をもつというスタートとして、自己紹介・他己紹介などのメソッド検討していきたい。

若林 プラスアルファの行動が自発的にできる学生を育てて欲しい。特に「ありがとう」をたくさん言う、言われるチャンスを作っていく事が役立つと思う。実例としてマクドナルドのサンキュー・カード※1などはとても良い試みだと感じる。

※1 スタッフ同士で「ありがとう」の気持ちを伝えるもの。アルバイト時代に店長からもらったカードを記念にしている人も多い。

黒須 疑問・挨拶できない学生というのは、成績についてはどうなのか。それは大きく関係するものなのか。就職後に「挨拶返事」の良し悪しが学校の評価になりやすい。これは学校の質が問われる問題でもある。

井上 実際、比例しているケースが多い。出席状況と成績、そして基本的な生活習慣は連動していると感じる。対処療法的でなくハードルの低い位置からコツコツと修正する努力が教員に必要である。

司会 意見を取りまとめる

- ① 今までの取り組みは評価できるので継続しつつグレードアップを図って欲しい
- ② 挨拶・返事など基本的な生活習慣の指導が必要である
- ③ 教員と学生が慣れ合うことなく正しい信頼関係を築いて欲しい
- ④ 「理容師としての将来」を意識させて必要なことを自ら学ぶ姿勢を作って欲しい

これらの目標の達成のために、助言やアイデアがあればいただきたい。

若林 自分の会社で効果があった試みは、モチベーション維持のために「目標」を月毎に立てさせ、その達成を自分で確認させることであった。学生については、月ごとの目標の取り組ませて最終的に卒業時に 24 カ月の結果を渡すというのも良いのではないか。

若月 全体として、「礼のある生活態度」という主題を教員と学生が意識することが大

切だと考える。

司会 いただいた意見をもとに、アドバイスを後期の授業に取り入れていく。結果は後期の会議で報告します。

今後の予定を協議し、次回は2月18日(火)に理容教育課程編成委員会を開催することを決める。

校長 貴重なご意見ありがとうございます。サービス業としての人と人の距離感が大切。如何に人を引き付けるか、色々なことに関心を持つことが「人への無関心」から心を開くことにつながる「ありがとう」といえる人材を育てていきたい。